

令和 3 年 6 月 23 日現在

機関番号：37503
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2017～2020
 課題番号：17K02763
 研究課題名(和文)旧ベトナム共和国のベトナム語・1975年を境とする連続と非連続

研究課題名(英文)Language in the Republic of Vietnam

研究代表者
 田原 洋樹(TAHARA, HIROKI)
 立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・教授

研究者番号：60331138
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：南カリフォルニア在住のベトナム系住民が運営しているNhan van nghe thuat Tieng thoi gianなど、有力な文芸・芸術系団体の協力により、多くのインフォーマントから1975年以前の言語動態に関する情報を得ることができた。特に、仏教、カトリックなどの宗教人、外交官や政府高官、教師、芸術家などの「言葉の使い手」あるいは「表現者」に幅広く接することがあり、言語学の枠を超えた研究交流を持つことができた。また、カリフォルニア大学ロサンゼルス校やカリフォルニア州立大学ロングビーチ校で、ベトナム系子女の学生向けに研究内容を講演したり、ゲストスピーカーとして講話する機会があった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
 ベトナム戦争終結を境とした劇的な体制転換や社会変化を反映した言語変容、そして旧体制下の言語文化を堅持したいというベトナム系住民の矜持を強く感じるつつ、日常会話、メディアに表出するベトナム語に対する当事者の意識変化を含めて、多角的に研究することができた。Web上の公開ならびに非公開グループで、旧ベトナム共和国のベトナム語表現に関する議論が積極的になされたり、戦後世代の若者や最近の移民が旧ベトナム共和国の言語事情、そして個別の言語表現に関するやり取りが活発に行われるなど、政治的立場のみではなく、また単なる懐古趣味でもない純粋な関心を集めるようになった、いわば時流にも乗ることができた。

研究成果の概要(英文)：With the cooperation of leading literary and artistic organizations in Southern California such as "Nhan van nghe thuat Tieng thoi gian", "Bao Nguoi Viet" and "Saigon TV", the research obtained information on the linguistic dynamics of Vietnamese before 1975. The research covered with a wide range of "language users" or "expressors" such as Buddhist and Catholic religious leaders, diplomats, government officials, teachers, and artists of the Republic of Vietnam. Those exchanges made this research multi-disciplinary. This project also offered some lectures to Vietnamese legacy students at UCLA and California State University at Long Beach.

研究分野：言語学

キーワード：ベトナム語 旧ベトナム共和国 ベトナム系住民 母語教育 継承語 エスニックメディア

1. 研究開始当初の背景

ベトナム語学に関する研究は飛躍的な進展を遂げたが、実際にベトナム人がいかなる言語生活を営んできたか、社会システムの変化に合わせて言語がいかに変容してきたかという問題は取り残されてきた。例えば、1975年以前のベトナム共和国(旧南ベトナム)における正書法に関する記述が、わずか40年前の出来事なのに、ベトナム国内ではほとんど入手できないことであり、語法や文法についても研究者の関心を集めていないことである。

関心を集めていない、と薄い表現にしているが、戦争(ここには戦時中、および戦後の社会主義化を含むものとする)を挟んだ深刻な社会的断絶がある。すなわち、戦後の国内においては、旧南ベトナムの言語文化は唾棄すべきものであり、戦争終結直後には、いわゆる「焚書」のような社会行動さえあり、抹殺対象であった。他方で、戦争末期から戦後にかけて、さまざまな手段でベトナムを離れ、異国に暮らすベトナム系移民にとっては、こうした言語文化は裸一貫の出国、文字通り命懸けの亡命で持ち出した精神的な遺産であり、何にも代えがたい財産である。

ベトナム国内での言語研究には政治的な制約がつきまとう。また、在外ベトナム人の研究者は複雑な政治的生い立ちを持ち、研究生活にも反映されている。つまり国という枠組から離れることが非常に困難である。

こうした価値観の対立、そして根本にある政治的対立とはやや距離感を保ちながら、国内外で中庸な立ち位置にいる外国人専門家ならではの視点や自由な行動によって、ベトナム語の時空間的変異を客観的に観察し、記述することを着想した。

2. 研究の目的

本研究は、1975年を境とする、ベトナム語および国内外のベトナム人の言語生活の変化を明らかにすることを目的としていた。75年4月のベトナム戦争終結によって、北から支配者流入と急速な社会主義化を受けた現在のベトナム南部におけるベトナム語南部方言と、戦後にベトナムを脱出した旧ベトナム共和国民を中心とする国外在住者、就中アメリカのベトナム系コミュニティにおけるベトナム語を比較することで、同じベトナム語でありながら両者における差異やゆれを、聞き取り調査を主軸にして微視的に研究した。

また、『発信重視』『現地への研究成果還元』を重視する立場から、現地での研究会やマスメディアへの露出など、論文以外の媒体や形式による研究成果の発表にも力を入れた。

3. 研究の方法

75年を境にした戦前戦後の「連続」と「非連続」を対照しうる言語情報を収集した。戦前の言語情報や言語動態については、アメリカ・カリフォルニア州在住のベトナム系住民へのインタビュー調査を実施した。また、ベトナム南部の戦後の言語動態については、ホーチミン市を拠点に、申請者や研究協力者が構築してきたコンサルタント層との意見交換を重視した。

戦前戦後という時間、国内国外という空間を超えて存在し続けている『旧ベトナム共和国のベトナム語』に対して記述言語学的アプローチで迫り、特徴を明らかにできた。言語学研究者のみならず、作家、報道関係者、宗教人などの言語活動や表現活動を広く調査する。これにより、言語動態を含めた全体像を把握でき、「連続」と「非連続」の対照研究を達成することが可能になった。

4. 研究成果

学会発表は招待講演3件で、ベトナム国内、台湾およびアメリカ合衆国で開催されている。いずれもベトナム語で実施した。

このうち、'Teaching Vietnamese as a foreign language' Session on Teaching Vietnamese' はカリフォルニア州立大学ロングビーチ校や Tuoi Hoa Publishers (1975年以前にサイゴンに所在し、中学生から大学生向けに文芸雑誌や単行本を刊行していた著名な同名出版社のメンバーたちがアメリカ亡命後に再興した。カリフォルニア在住のベトナム系住民の精神的な拠りどころのひとつとなっている)などが共催した学会での基調講演であった。世界的なコロナ禍で、当初計画と異なり、オンライン開催となったが、650人以上の聴衆が3日間にわたって研究発表や教育実践を交換しあう大規模な研究会になり、ベトナム語非母語話者としては唯一の参加で、多くの関心を集めることができた。なお、同学会は2021年8月にも開催される予定で、引き続き基調講演を依頼されていることから、1975年以前の旧南ベトナムにおけるベトナム語の言語動態や文芸活動に対するベトナム系住民の興味関心を高めることに本研究が一定の学術的貢献を果たしたと考えられよう。

また、研究成果公表を重視する立場から、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校で開講される学部学生向けの講義にゲストスピーカーとして参加した。学生の大半はベトナム移民の第3世代で、すなわち親族とのベトナム語コミュニケーションには問題ない一方で、ベトナム語の読み書きに苦勞する世代であった。彼らに非母語話者がベトナム語で講演し、質疑応答に応じるのが研究期間中の年中行事のひとつになり、回を重ねる

ごとに講義時間以外でのコミュニケーションも広がった。

さらに、テレビのインタビュー番組への出演（ベトナム、アメリカ）、新聞のインタビュー取材（ベトナム）、コンサートでの歌唱（アメリカ）を行った。ほかに大学内の研究会での発表（日本国内）も実施した。

研究論文2本を発表した。いずれも外国語および継承語としてのベトナム語教育に関するものである。

なお、研究成果の一部は2017年に刊行した『パスポート初級ベトナム語辞典』にも見出し選定、例文や解説執筆に反映されている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 田原洋樹 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 『外国人に対するベトナム語能力枠』を考える - わたしたちは、教室の先にある「社会」を見ているのか - | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 『アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究』成果報告集 | 6. 最初と最後の頁 1-11 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 田原洋樹、グエン・ホアン・ミン | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 「ベトナム語における呼称の扱いかた - 『外国人のベトナム語能力測定枠』に即して - 」 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 『アジア諸語の社会・文化的多様性を考慮した通言語的言語能力達成度評価法の総合的研究』成果報告書 | 6. 最初と最後の頁 11-19 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 該当する |

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 3件/うち国際学会 4件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 Hiroki TAHARA, TRAN Thi Minh Gioi |
| 2. 発表標題 May nhan xet ve lop Viet ngu o Kobe |
| 3. 学会等名 International Conference on Vietnamese Studies (Ton Duc Thang University, Vietnam) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Hiroki TAHARA |
| 2. 発表標題 Cam tuong cua mot cuu sinh vien |
| 3. 学会等名 ホーチミン国家大学社会科学人文大学ベトナム学部開設20周年記念式典（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 田原洋樹 |
| 2. 発表標題 ベトナム語はどう教えられているのか、どう学ばれているのか |
| 3. 学会等名 「アジア諸言語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の研究開発」研究会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Hiroki TAHARA |
| 2. 発表標題 Giang day tieng Viet nhu mot ngoai ngu tai mot truong dai hoc Quoc te o Nhat Ban |
| 3. 学会等名 International Workshop on Vietnamese Language Teaching and Testing (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Hiroki TAHARA |
| 2. 発表標題 Teaching Vietnamese as a foreign language in Japan |
| 3. 学会等名 Session on Teaching Vietnamese (CSU Long Beach) (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

〔図書〕 計1件

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 田原 洋樹、グエン・ヴァン・フエ、チャン・ティ・ミン・ヨイ | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 白水社 | 5. 総ページ数 433 |
| 3. 書名 パスポート初級ベトナム語辞典 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | | | |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| | |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|